

皆様おはようございます。

受難節の時も進みに進み、再来週は受難週というところまでやってまいりました。

最後の晚餐の後、主を捕らえる者の軍勢がイエス様を、弟子たちを取り囲もうとする中、イエス様は弟子たちに祈ったよと言われました。

マタイ 26:31 そのとき、イエスは弟子たちに言われた、「今夜、あなたがたは皆わたしにつまずくであろう。『わたしは羊飼を打つ。そして、羊の群れは散らされるであろう』と、書いてあるからである。

ゼカリヤ 13:7 万軍の主は言われる、「つるぎよ、立ち上がってわが牧者を攻めよ。わたしの次に立つ人を攻めよ。牧者を擊て、その羊は散る。わたしは手をかえして、小さい者どもを攻める。

31 シモン、シモン、見よ、サタンはあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って許された。

32 しかし、わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った。それで、あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい」。

サタン、悪魔は弟子たちを、価値のないもみ殻にすぎないことを知っているかのように勝ち誇ったようにこう言います。「神様、あの弟子たちを麦のようにふるいにかけさせてください。」主の弟子として合格か、不合格か、試験させてください。果たして彼らは主の弟子として合格なのでしょうか？ 主なる神様はその申し出を受け入れられました。

ふるいにかける時、軽いもみ殻は風と共に飛び去って行きますが、しっかりと実の入った麦はその場に落ちます。さあ、弟子たちは吹き飛ばされていくもみ殻のように掃いて捨てられてしまうのでしょうか。

「わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った」これはそのふるいにかけられる出来事により、弟子たちが信仰を失うほどの大きな出来事になる事を暗示しています。

33 シモンが言った、「主よ、わたしは獄にでも、また死に至るまでも、あなたとご一緒に行く覚悟です」。

シモン・ペテロはこのイエス様の語りかけに、イエス様の身に重大なことがこれから起こる

ことを悟り、どんなに熾烈な迫害が襲って来ようとも、「主よ、わたしは獄にでも、また死に至るまでも、あなたとご一緒に行く覚悟です」と語りました。
しかしその言葉に対してイエス様はこうお答えになられました。

34 するとイエスが言われた、「ペテロよ、あなたに言っておく。きょう、鶏が泣くまでに、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう」。

晚餐が終わり、夜も更け行くころ、この夜のうちに重大なことが起こり、この同じ夜の、今晩の、その夜の明けきれぬうちに、今「主よ、わたしは獄にでも、また死に至るまでも、あなたとご一緒に行く覚悟です」と語ったばかりの、まさに舌の根の乾かぬ内に、ペテロは朝の早起き鶏のまだ鳴く前に実に3度も、完膚なきまでに関係がない、知らないと、イエス様との関係を認めずに、縁を切るような言葉を3度も語る事になるだろうとイエス様は予告をなさいました。ペテロはこのイエス様のお言葉にどう思ったのでしょうか。信じられない気持ち、そんなことは決してあり得ないという決然とした気持ちは揺らいではいなかつたのではないかと思います。

35 そして彼らに言われた、「わたしが財布も袋もくつも持たせずにあなたがたをつかわしたとき、何かこまったことがあったか」。彼らは、「いいえ、何もありませんでした」と答えた。

36 そこで言われた、「しかし今は、財布のあるものは、それを持って行け。袋も同様に持つて行け。また、つるぎのない者は、自分の上着を売って、それを買うがよい。

37 あなたがたに言うが、『彼は罪人のひとりに數えられた』とするしてあることは、わたしの身に成しとげられねばならない。そうだ、わたしに係わることは成就している」。

38 弟子たちが言った、「主よ、ごらんなさい、ここにつるぎが二振りございます」。イエスは言われた、「それでよい」。

主イエス様は犯罪人の一人のようにして、暴力的に引かれていくことが語られます。この後は、弟子たちにも危険が及ぶかもしれません。イエス様の弟子だからといって受け入れて支えてくれた人が多くいたかもしれません。しかしこれからは迫害を恐れてイエス様の弟子ならばと裂けられてしまうことになるかもしれない。武器をかざして威嚇され、攻撃され、血が流れるかもしれない。今まで財布も袋も、武器も要らなかった。しかしこれからは状況が一変する。「『彼は罪人のひとりに數えられた』とするしてあることは、わたしの身に成しとげられねばならない。そうだ、わたしに係わることは成就している」から、と主は語られました。

39 イエスは出て、いつものようにオリブ山に行かれると、弟子たちも従って行った。

- 40 いつもの場所に着いてから、彼らに言われた、「誘惑に陥らないように祈りなさい」。
- 41 そしてご自分は、石を投げてとどくほど離れたところへ退き、ひざまずいて、祈って言われた、
- 42 「父よ、みこころならば、どうぞ、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください」。
- 43 そのとき、御使が天からあらわれてイエスを力づけた。
- 44 イエスは苦しみもだえて、ますます切に祈られた。そして、その汗が血のしたたりのように地に落ちた。
- 45 祈を終えて立ちあがり、弟子たちのところへ行かれると、彼らが悲しみのはて寝入っているのをごらんになって
- 46 言われた、「なぜ眠っているのか。誘惑に陥らないように、起きて祈っていなさい」。

「誘惑に陥らないように祈りなさい」「わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った」

「イエスは苦しみもだえて、ますます切に祈られた」

「御使が天からあらわれてイエスを力づけた」

「彼らが悲しみのはて寝入って」…「なぜ眠っているのか。誘惑に陥らないように、起きて祈っていなさい」

今日の個所は祈りの素晴らしいが、その力強さが教えられています。

イエス様は終始祈っておられました。状況の過酷さについては、イエス様が一番お感じになっておられるところでした。包囲網がだんだんと狭まり、敵の手が自らに及ぼうとしている時。

「父よ、みこころならば、どうぞ、この杯をわたしから取りのけてください。」と、苦しみもだえ、その汗が血のしたたりのようにボタボタと地に落ちるほどに苦しみ祈るイエス様のお姿がありました。イエス様ご自身が、弟子たちよりも先にふるいにかけられる試練にあっておられました。その公生涯の初め、荒野の3度の誘惑に続き、その生涯の終わりにも、熾烈な悪魔の働きかけと試みがありました。さあ、自らの思いのまま、その苦き杯を投げ捨てよ、そして楽になるがよいと悪魔はささやきます。しかしイエス様は、「しかし、わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください」と祈られました。

私たちは弱いのです。力強い決意も、それが私たちだけの力による決意であれば、すぐに頽れて(くずおれて)しまいます。しかし、そこに祈りがあれば。私たちが自分の弱さも不出来も知り尽くしたうえで、私たちは失格者です。ふるいにかけられればやすやすと吹き飛んでしまう失格者です。しかしそれならばこそ私たちは力強いあなたの助けを待ち望み、祈りま

すと叫ぶのです。イエス様はご自分が犯罪人、律法の外にある異邦人呼ばわりされて、裁き捨てられようとしている時、そして十字架にかけられようとしている時、大きな苦しみと共に祈り、神様のみ旨を探されました。そして祈りの中での支えを得られ、力付けを得られました。

私たちは祈りをどのようにとらえているでしょうか。私たちの願いを知っていただくこと、平安を得ること、色々とあると思います。ここで教えられることは、祈りは困難の窮まるところ、今にも頽れてしまうという時の緊急的な助けを得られる道です。熾烈な困難が牙をむき、試み、世界を挙げて状況を取り囲み、私たちに対して失敗させようとする力は、それは想像をはるかに上回るものがあります。

「この杯をわたしから取りのけてください」、もう到底耐えきれませんというように重圧が私たちにのしかかることがあります。それは私たちの弱さのゆえかもしれません。イエス様のように罪を犯さなかった方の高貴なるご苦労とはくらべものにもならないような、自分自身の身から出た錆のようなそういう失敗から生ずる状況の困難かもしれません。しかしいずれにしても、私たちが、私たちを不利な状況へと追い詰めようとする状況の中で、信仰を失わせようとする誘惑の中で、勝利するたった一つの方法は、祈ることです。

31 シモン、シモン、見よ、サタンはあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って許された。

32 しかし、わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った。それで、あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい」。

33 シモンが言った、「主よ、わたしは獄にでも、また死に至るまでも、あなたとご一緒に行く覚悟です」。

34 するとイエスが言われた、「ペテロよ、あなたに言っておく。きょう、鶏が泣くまでに、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう」。

シモンとは、もともとの名前で、ペテロとは、「岩」という意味で、イエス様が名付けた呼び名でした。

この呼び名で初めて呼ばれたのは、あのルカ5章、大漁の奇跡の後でペテロが私は罪深い者ですと告白した後の事でした。

5:1 さて、群衆が神の言を聞こうとして押し寄せてきたとき、イエスはゲネサレ湖畔に立ておられたが、

5:2 そこに二そうの小舟が寄せてあるのをごらんになった。漁師たちは、舟からおりて網を洗っていた。

5:3 その一そうはシモンの舟であったが、イエスはそれに乗り込み、シモンに頼んで岸から少しこぎ出させ、そしてすわって、舟の中から群衆にお教えになった。

5:4 話がすむと、シモンに「沖へこぎ出し、網をおろして漁をしてみなさい」と言われた。

5:5 シモンは答えて言った、「先生、わたしたちは夜通し働きましたが、何も取れませんでした。しかし、お言葉ですから、網をおろしてみましょう」。

5:6 そしてそのとおりにしたところ、おびただしい魚の群れがはいって、網が破れそうになつた。

5:7 そこで、もう一そうの舟にいた仲間に、加勢に来るよう合図をしたので、彼らがきて魚を両方の舟いっぱいに入れた。そのために、舟が沈みそうになった。

5:8 これを見てシモン・ペテロは、イエスのひざもとにひれ伏して言った、「主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深い者です」。

5:9 彼も一緒にいた者たちもみな、取れた魚がおびただしいのに驚いたからである。

5:10 シモンの仲間であったゼベダイの子ヤコブとヨハネも、同様であった。すると、イエスがシモンに言われた、「恐れることはない。今からあなたは人間をとる漁師になるのだ」。

5:11 そこで彼らは舟を陸に引き上げ、いっさいを捨ててイエスに従つた。

シモン、シモン、見よ、サタンはあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願つて許された。

32 しかし、わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈つた。それで、あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい」。

弱くか弱いシモンよ、愛する子シモンよ、私はあなたのために祈つてゐるよ。

33 シモンが言った、「主よ、わたしは獄にでも、また死に至るまでも、あなたとご一緒に行く覚悟です」。

34 するとイエスが言われた、「ペテロよ、あなたに言っておく。きょう、鶏が泣くまでに、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう」。

ペテロよ、私はあなたの固い決意を知つてゐる。しかし人はそんなに強い者ではないのだよ。わたしはとうにすべて知つてゐる。あなたが苦しみから、後悔から、懺悔から、その祈りの中で力づけられ、立ち上がって戻つてくることを知つてゐるよ。弱い時にこそ強い。その弱さも醜さも知つたうえで力強く神様にすがつた瞬間がペテロだったではないか。この時もあなたが信仰を失わずに、また自分の弱さも汚れも醜さも認めて、神様の前にただ憐れみと赦しを求めて立ち上がる様子に祈つてゐるよ。そしてあなたは立ち上がって他の兄弟たちを助け、力づけ、励ますのだ、いいね、との主のあたたかきお声が私たちの胸に響きます。私たちもまた、自らの弱さを乗り越えさせる祈りの世界があるということ、血が滴る恐怖の逼迫した状況でも支えられ、励まされるいのちの源泉が祈りであることを覚え、祈りと共に進み出て行きたいと願ひます。

◇祈祷；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。人の力と意志、弟子たちの、私たちの信仰の思いの、いかに純粹であろうとも、それは弱くてもろいものであることをつくづくと教えられます。私たちの決意はむなしく、大失敗を犯すのですが、主の祈りに守られていること、そして私たちにも祈りが与えられており、神様が祈りに答えて私たちを立ち直らせ、力づけて下さることをありがとうございます。私たちを誘惑から守り、決して私たちは自分の力で私たちを取り囲む状況に自力で立ち向かえるものではなく、ただ神様のお力と恵みによって向かうことが出来ることを教えて下さり、私たちが意気消沈せずに祈り続けることが出来るように助けて下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン